令和 10 年度
完成に向けて

類型３
多様なニーズに
対応した教育機会の確保

様々な背景を持つ生徒の居場所づくりと地域を教材とした体験を伴う教育活動をとおした自己有用感の回復と社会的自立

境港総合技術高校（水産／工業／福祉）

主な連携校／境高校、日野高校、鳥取緑風高校、米子白鳳高校

■様々な背景をもつ生徒の居場所づくり

ステップ１

実習現場と自宅をつなぐ

特に不登校傾向がある生徒に、自宅にいながらでも専門的学びができる環境を提供し、学びのきっかけをつくります。



ステップ２

実習現場とコミュニケーションルームをつなぐ

体験的学びへの興味から、登校につながった生徒に対して、まずは、教室とは異なる居場所（コミュニケーションルーム）を提供し、実際の実習への参加に道筋をつけます。



ステップ３

実習現場と教室をつなぐ

「遠隔配信システム」を整備することで特色ある専門的学びを他校へ広げ、県全体へ質の高い専門学科の学びを広げます。



［主な整備内容］●遠隔配信システムの整備　●コミュニケーションルームの整備

体験的教育活動の充実、環境整備

［主な整備内容］

- 乗船実習や過酷な屋外実習への苦手意識・心理的負担から実習参加を躊躇していた生徒に対し、快適かつ心理的に安全な校内ラボ環境で、水中ドローンが収集した海洋データの解析やプログラム制御にじっくり没頭できる新しい学びの場として「**水中ドローン・ビッグデータ解析ラボ**」を整備します。
- 手順や見通しの曖昧さに不安を感じやすい特性を持つ生徒にとって、食品製造プロセスは「ルールと衛生管理が徹底された安心できる環境」になり得ます。タブレットによるチェックリストで工程順に表示し、加熱温度・圧力・時刻を一項目ずつ記録することで、「次に何をするか」で迷わない HACCP 準拠の「**スマート・フードラボ**」を整備します。
- 対人不安や「間違えたらどうしよう」という強い失敗恐怖を持つ生徒に対し、何度失敗しても安全で、手元カメラなどを通じてペア作業も自分のペースで行えるバーチャルな試行錯誤の場を提供する設備を備えた「**モビリティ実習棟**」を整備します。
- 他者の感情に特に敏感な生徒や生身の対人関係に疲弊しやすい生徒に対し、アバター対話やタブレットでの映像振り返り等を介して、心理的圧迫感のないフィルター越しに段階的な対話・介護技術を学ばせる拠点として「**地域交流・福祉 ICT 活用スタジオ**」を整備します。





（画像はすべてイメージです。）

■ライフ・リテラシー・プログラム（LLP）

～多様な困り感を持つ生徒の「自己有用感の回復」を経て社会的自立へ導く独自のプログラム～

グラデーションステージ【環境整備】	マインド・羅針盤【振り返り：全科共通】	COCORO-NAVI【学校設定科目：１年次】	ダイバース・プロジェクト委員会【組織体制】
生徒の状態に応じて柔軟に学びへアプローチできる段階的環境を整備。	作業中の感情・疲れやすさなど自分の心身の状態を言語化し、「得意・苦手」や特性を客観的に捉え、自己理解を深める。	アンガーマネジメント等の心理教育、福祉科と連携した外部施設交流。『マインド・羅針盤』と連動し、自身の強みや興味を模索。	校内の特別支援教育・生徒指導体制を統合した専門組織。個別の支援計画・指導計画を作成・評価

関係機関／鳥取大学　公立鳥取環境大学、鳥取看護大学、鳥取短期大学、漁協、地元企業、境港市　等